

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2022 年 5 月

「神のみかたちを回復する」「イエスは再び来られる！（Ⅰ）」「黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ」
「ファラフェル（中東のひよこ豆のコロッケ）」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「イエスは再び来られる! (II)」

4

聖書の教え

朝のマナ

神のみかたちを回復する

8

Restoring the Image of God

現代の真理

「黙示録 18 章の御使と
1888 年のメッセージ (IV)」

40

Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事

「ファラフェル (中東のひよこ豆のコロッケ)」

46

レシピ

お話コーナー

「世界の誕生日 (II)」

48

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話: 0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話: 0980-55-8136

発行日 2022 年 4 月 3 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page; Sermon View on page
48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

多様性における一致

あらゆる主の取決めの中で、男女に多様な賜物をお与えになるというご計画ほど美しいものは他にない。教会は様々な木々、植物、花々で飾られた神の庭園である。このお方はヒソブに杉のような大きさを身につけるよう期待なさることはないし、オリブの木に堂々としたやしの木の高さに到達することを期待なさることもない。多くの人々は限られた宗教的かつ知的訓練を受けてこなかったが、それでもこの階級の人々がもし神に信頼して謙遜のうちに労するならば、神には彼らのための働きがあるのである。

植物や花々の限らない多様性から、わたしたちは重要な教訓を学ぶことができる。すべての花は形や色が同じではない。あるものには癒しの力があるし、あるものはいつものかわしい。クリスチャンだと公言する人に、すべてのクリスチャンを自分自身のようにすることが自分の義務だと考えている人がいる。これは人の計画であって、神のご計画ではない。神の教会には、庭園の花々と同様に、さまざまな品性のための場所がある。このお方の霊的な庭園にはたくさんの多様な花々がある。

思いや考えは多様でありながら、一つの主題が心と心を結ぶべきである。すなわち、真理への魂の改心、すべての人を十字架へ引き寄せることである。

ある働き人は、準備のできた話し手であるかもしれない。他の人は準備のできた書き手であるかもしれない。他の人にはまごころからの真剣で熱烈な祈りという賜物があるかもしれない。他の人は賛美する賜物、他の人には神のみ言葉を明確に説明する特別な力があるかもしれない。そしてそれぞれの賜物は神のための力となるべきである。なぜなら、このお方が働き人と共に働いてくださるからである。ある人に神は知恵の言葉を与え、他の人には知識を、他の人には信仰をお与えになる。しかし、すべての人は同じ頭の下で働かなければならない。賜物の多様性は、働きの多様性へと導く。しかし、「働きは種々あるが、すべてのものの中に働いてすべてのことをなさる神は、同じである」(コリント第一 12:6)。…

彼らのタラントがどれほど多様であろうと、すべての人は同じ御霊の支配下にあることができる。一つ一つの言葉や行動に、親切と愛が表されるであろう。そして各働き人が忠実に自分に定められた持ち場を占めるとき、キリストがご自分の弟子たちの一致のために祈られた祈りが答えられる。そして世は、これらの人々がキリストの弟子であることを知るようになるのである。…

主には様々な働き方があること、またこのお方にはさまざまな賜物をお委ねになったさまざまな働き人がいることを覚えていよう。(伝道 98-100)

第28課 イエスは再び来られる! (I)

祝福された希望

キリストの初臨は、ユダヤ民族にとって大いなる希望でした。しかし、彼らは、そのおとずれの時を知りませんでした。親愛なる友人の皆さん、イエスは、再び来られます!これこそ、クリスチャンの希望の完成です。使徒パウロは、この栄光に満ちた出来事を「祝福された希望」だと呼びました。あらゆる預言は、この素晴らしい出来事によって活気づいています。この世代は、自分たちのあらゆる希望が成就する時を認識できなかったユダヤ民族のようになるのでしょうか?

主が昇天によって弟子たちと別れる直前に、主自らがしみじみと次のように語られました。「あなたがたは、心を騒がせないがよい。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、すまいがたくさんある。もしなかったならば、わたしはそう言っておいたであろう。あなたがたのために、場所を用意しに行くのだから。そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。」(ヨハネ 14:1-3)。

わたしたちは、第25課において、主の再臨の近いことを示すしるしの著しい成就について学びました。

あらゆる時代において宣布された祝福された希望

キリストがベツレヘムにおいて赤ん坊として生まれた時よりずっと以前から、キリストの再臨はあらかじめ伝えられていました。洪水前に、アダムから数えて7代目の子孫であるエノクは次のように預言しました。「見よ、主は無数の聖徒たちを率いてこられた。それは、すべての者にさばきを行うためであり…」(ユダ 1:14, 15)。

ノアから数えて10代目にあたるアブラハムも、キリストが栄光のうちに来臨なさることを証しました。「あなたがたの父アブラハムは、わたしのこの日を見ようと

して楽しんでいた。そしてそれを見て喜んだ」。(ヨハネ 8:56)。

父祖ヨブも、これらの信仰と希望の言葉に、自分の証を加えています。「わたしは知る、わたしをあがなう者は生きておられる、後の日に彼は必ず地の上に立たれる。わたしの皮がこのように滅ばされてもなお、わたしはわが肉のうちに神を見るであろう。」(ヨブ 19:25, 26 欽定訳)。

イスラエル王のダビデも次のように預言しています。「われらの神は来て、もだされない。み前には焼きつくす火があり、そのまわりには、はげしい暴風がある。神はその民をさばくために、上なる天および地に呼ばれる」(詩篇 50:3, 4)。

この同じメッセージは、各時代を通じて鳴り響き、聖書を通して何度も繰り返されています。啓示者ヨハネに与えられたイエスの最後の言葉は、至る所にこのお方の来臨のしるしが成就しているのを見るこの世代に特に語られています。「しかり、わたしはすぐに来る」(黙示録 22:20)。

文字通りの来臨

イエスは、どのような方法で再臨なさるのでしょうか。わたしたちはこの出来事を認識することができるでしょうか。偽物と憶測が蔓延します。人間が作った理論があっても、わたしたちはだまされる必要はありません。イエスに会う準備をすることができます。わたしたちは、ただ神が仰せになることだけを信じ、このお方の次のみ言葉にしたがって自分の準備をする必要があります。「そこでイエスは答えて言われた、「人に惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう」(マタイ 24:4, 5)。

サタンによる惑わしの最高傑作は、キリストの再臨をまねることです。「しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に擬装するのだから」(コリント第二 11:14)。

そのため、キリストがどのような方法で再臨するかを知ることは、非常に重要です!キリストの弟子たちがキリストの昇天されるのを見たのとちょうど同じ有様で、このお方は再臨なさいます。「イエスの上って行かれるとき、彼らが天を見つめていると、見よ、白い衣を着たふたりの人が、彼らのそばに立っていて言った、「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様

で、またおいでになるであろう」(使徒行伝 1:10, 11)。

天の使たちは、確かな事実について完全な記録を残しました。すなわち、イエスは同じ有様で戻ってこられます。だれにも欺かれないようにしましょう。

ヨハネは、その出来事が目に見えるものであり、現実であることを宣言しました。「見よ、彼は、雲に乗ってこられる。すべての人の目、ことに、彼を刺しとおした者たちは、彼を仰ぎ見るであろう。また地上の諸族はみな、彼のゆえに胸を打って嘆くであろう」(黙示録 1:7)。

イエスご自身が、この重要な出来事を、すべての人が見ることのできるいなくまにたとえられました。「ちょうど、いなくまが東から西にひらめき渡るように、人の子も現れるであろう... そのとき、人の子のしるしが天に現れるであろう。またそのとき、地のすべての民族は嘆き、そして力と大いなる栄光とをもって、人の子が天の雲に乗って来るのを、人々は見るであろう」(マタイ 24:27, 30)。

イエスは、赤ん坊としてではなく、力強い王、支配者として再臨なされます。そのイエスの後ろには、天の万軍が従います。「またわたしが見てみると、天が開かれ、見よ、そこに白い馬がいた。それに乗っているかたは、『忠実で真実な者』と呼ばれ、義によってさばき、また、戦うかたである。その目は燃える炎であり、その頭には多くの冠があった。また、彼以外にはだれも知らない名がその身にしるされていた。彼は血染めの衣をまとい、その名は『神の言』と呼ばれた。そして、天の軍勢が、純白で、汚れのない麻布の衣を着て、白い馬に乗り、彼に従った。その口からは、諸国民を打つために、鋭いつるぎが出ていた。彼は、鉄のつえをもって諸国民を治め、また、全能者なる神の激しい怒りの酒ぶねを踏む。その着物にも、そのももにも、『王の王、主の主』という名がしるされていた。」(黙示録 19:11-16)。

だれがこのお方を見るのであろうか？

「見よ、彼は、雲に乗ってこられる。すべての人の目、ことに、彼を刺しとおした者たちは、彼を仰ぎ見るであろう。また地上の諸族はみな、彼のゆえに胸を打って嘆くであろう。」(黙示録 1:7)。

地上に存在する全ての人々は、イエスが天の雲の上に乗ってくることを目撃し、「彼を刺しとおした者たち」でさえ、何世紀も前に死んでいるにもかかわらず、その光景を目撃するようになります。イエスは、サンヒドリンの裁判において、ご自

分の告発者たちに言われました。「わたしは言うておく。あなたがたは、間もなく、人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」(マタイ 26:64)。

前の課においてわたしたちは、イエスの再臨の際に全ての聖徒たちの全般的な復活があることを学びました。イエスご自身が、彼らを墓から呼び起こされます。これらの人々は、キリストが来られる時に復活するため、このお方の実際の来臨を目撃することはありません。しかし、特別な復活において生き返った人々は、地上で生きている人々と共に、あらゆる栄光のうちに主が来られるのを目撃するのです。

神のみかたちを回復する

Restoring the Image of God



5月

結婚：わたしたちの益のために計画された

ふさわしい助け手

「人は、すべての家畜と、空の鳥と、野のすべての獣とに名をつけたが、人にはふさわしい助け手が見つからなかった。」「また主なる神は言われた、『人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。』」(創世記 2:20,18)

主はご自分のすべての被造物のうちで、この最後にして最も気高い者を喜ばれ、彼が完全な世界の完全な住民となるよう計画された。しかし、人が孤独に暮らすのはこのお方のご目的ではなかった。(ユース・インストラクター 1899 年 8 月 10 日)

アダムが創造されたあとで、彼に名をつけてもらうために、すべての生物が、彼の前につれてこられた。彼はどの動物も対になっているのを見た。しかし、それらの中には、彼に「ふさわしい助け手が見つからなかった」。神が、地上で創造なさったすべての生き物の中には、人間にふさわしいものはいなかった。また神は言われた、「人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう」(創世記 2:20,18)。人間は孤独な生活をするように造られたのではない。彼は、社交的な存在でなければならなかった。もし伴侶がなければ、エデンの美しい光景も、愉快的な労働も、完全な幸福を与えることはできなかったことであろう。天使たちとの交わりでさえ、同情と伴侶を求める彼の願望を満足させることはできなかった。愛し愛される同じ性質のものがいなかったのである。

神ご自身が、アダムに伴侶をお与えになった。神は、「彼にふさわしい助け手」すなわち、彼にちょうど合った助け手、彼の伴侶となるにふさわしく、彼と一つになって、愛し、同情することができる者をお与えになった。」(人類のあけぼの上巻 20,21)

神は男から女を造られた。それは女が男の伴侶となり助け手となり、彼と一体となって彼を慰め、励まし、祝福し、その代わりに男が女の力強い助け手となるためであった。……

キリストから発散する天来の愛は人間の愛情をこわすことは決してなく、かえってそれを包含する。人間の愛はそれによって洗練され、きよめられ、高められ、高潔にされる。人間の愛情は天の性質と結合し、天に向かって成長するように訓練されなければ決して尊い実を結ぶことはできない。イエスは幸福な結婚、幸福な妒妬を見ることを望まれる。(アドベンチスト・ホーム 99,100)

5月2日

助け手としての女

「そこで主なる神は人を深く眠らせ、眠った時に、そのあばら骨の一つを取って、その所を肉でふさがれた。主なる神は人から取ったあばら骨でひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。」(創世記 2:21,22)

エバは、アダムのわきから取られたあばら骨によって創造された。このことは、彼女がかしらになって彼を支配するのでもなければ、彼よりは劣った者として彼の足の下に踏みつけられるものでもなく、同等のものとして、彼のかたわらに立ち、彼に愛され、守られるものであることを示している。男の一部分、彼の骨の骨、彼の肉の肉として、彼女はアダムの第二の自分であった。そしてこの関係には、密接な結合と深い愛情がなければならないことを示された。「自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもいない。かえって、……おのれを育て養うのが常である。」「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである」(エペソ 5:29, 創世記 2:24)。

神は、最初の結婚をとり結ばれた。だから、結婚式の制定者は、宇宙の創造主である。「結婚を重んずべきである」(ヘブル 13:4)。それは、神が人間にお与えになった最初の賜物の一つであった。また、それは、墮落後、アダムが楽園の門から持って出た二つの制度のなかの一つである。婚姻関係に関する神の原則をわきまえ、それに従うときに、結婚は祝福である。それは、人類の純潔と幸福を守り、人間の社会的必要を満たし、肉体的、知的、道徳的性質を高める。(人類のあけぼの上巻 21)

初めに安息日の律法が人に与えられたとき、結婚の律法も与えられた。そのとき神はご自分の二つの大いなる賜物一伴侶としての女と休息の日としての安息日を人にお与えになった。神は、女が聖なる婚姻で人と結ばれ、栄誉の冠となる子供を育て、天の家族の象徴となる家族にすることを定められた。(原稿リ-ス 10 巻 197)

結婚関係におけるあなたがたの交わりは、親密で愛情深く、きよらかで高貴で、あなたがたの生活に霊的力を吹き込むものでなければならない。それは、あなたがたが神のみことばが要求しているとおりのもとなるためである。(7ドベンチスト・ホーム 114)

互いに結び合う

「人は言った。『これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉。男から取ったものだから、これを女と名づけよう。』それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世記 2:23,24)

神ご自身が聖なる夫婦を結びつけられた。そしてこの最初の結婚がすべての結婚の模範となるべきである。(ユース・インストラクター 1899 年 8 月 10 日)

最初の聖なる夫婦を造り、彼らのために樂園を造られたお方は、結婚制度に印を押し、エデンで最初の儀式を執り行われ、そのとき明の星は共に歌い、神の子らはみな喜びよばわった。(天国で 202)

創造主は聖なる二人に結婚の契りを結ばせて、「人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである」と仰せになった(創世記 2:24)。創造主は世の終わりに至るまでのすべてのアダムの子らのために、結婚の律法を宣言された。永遠の父なる神ご自身がよしと宣言されたのは、人間にとって最高の祝福と発達
の律法であった。(祝福の山 79)

もし心がわたしたちの家族の中で優しく保たれているなら、もしお互いの好みや意見に気高く寛大な敬意を払うなら、もし妻が夫に礼儀正しい行いで、自分の愛を表す機会を探し求めているなら、また夫が同じ考えを表しつつ、妻を親切に評価するなら、子供たちは同じ精神にあずかるものとなる。感化力は家中の者に浸透し、家族の中でなんと不幸の潮流がなくてすむことであろうか!

結婚の契約において、男女は取引、すなわち生涯の投資をしたのである。であるから、彼らは、いらいらした言葉や不満の言葉を押さえるために、結婚以前よりなおさら注意深く、最大限に努力しなければならない。なぜなら今や彼らの運命は、夫と妻として一生の間結ばれており、互いの価値は、結婚前にそれほど熱心に求め、重んじた愛を持ち続け、新鮮に保つたためになされる骨折りの努力の量にちょうど比例して評価されるからである。(天国で 206)

天のもっとも麗しい型は主の御霊が統括しておられる家庭である。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1892 年 11 月 14 日)

5月4日

人はいつ結婚の準備ができるか

「外で、あなたの仕事を整え、畑で、すべての物をおのれのために備え、その後あなたの家を建てるがよい。」(箴言 24:27)

あなたは自分自身の品性が完全に確立する前に、結婚関係に入ろうと熱望し、家族の世話を引き受けるべきではない。(教会への証 5 巻 74)

わたしは……自分が目指すべきだと考えてきた高い標準に到達するための努力において、知識と経験と成功を得るまでは、若い男性にはめとることがないように、また若い女性にはとつぐことがないようにと、警告する。(出版伝道 74)

むかし、花婿は結婚の約束が批准される前に、ある一定の金額、あるいはその時の事情に応じて同額に値する他のものを、妻の父親に収めねばならない習慣があった。これは結婚関係に対する保障と見なされた。父親たちは、家族を養う準備もできていない人に、自分の娘の幸福をまかせることは安全でないと考えていた。彼らが事業をうまく処理して土地や家畜を手に入れる力がなく、節約する心がなければ、彼らの生活は役に立たないものになるとおそれられた。だが妻のために支払うものが何もない人のために一つの方法が設けられていた。彼らは、要求された結納金に従って定められた一定の期間、愛する人の父親のために働くことを許されていた。……

この古代の習慣は、ラバンがしたように、ときには悪用されることがあったにしても、よい結果をもたらした。花婿が花嫁を得るために働くことを要求されたとき、性急な結婚は防ぐことができた。家族を養う彼の能力ばかりでなく、彼の愛情の深さをためす機会もあったわけである。今日これと反対のコースがたどられているために多くの悪が生じている。

男はだれでも、経済的能力がないことは許されない。親切で、気立てがやさしく、寛大でよい人であり、クリスチャンであるが、自分の仕事をうまく処理する能力がないといえる人がおおぜいいる。金銭に関する限り彼はただの子供である。彼は独立の原則を理解し実行するよう親に教えられて成長しなかったのである。(アドベンスト・ホーム 90, 91)

夫－ハウスバンドーの上には、新設と愛と調和という絆によって家庭をひとつにまとめる大きな責任がある。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882 年 2 月 23 日)

真の女性の美しさ

「賢い妻はその夫の冠である、恥をこうむらせる妻は夫の骨に生じた腐れのようなものである。」(箴言 12:4)

家族の幸福は、大いに妻であり母親である者にかかっている。

若い青年は、彼のかたわらに立って生涯の重荷を分かち合うにふさわしい人、すなわちその感化力が彼を高尚にまた精練し、その愛のうちに彼を幸福にする人をさがしなさい。結婚生活はロマンスだけではない。そこにはそれなりの真の困難や家庭のこまごました事情がある。妻は自分のことを、面倒を見てもらう人形ではなく、女性として見なさなければならない。すなわち自ら、想像上ではなく真の重荷を引き受け、理解と思いやりの生涯を送り、自分自身のことよりも考えるべき他のあることを考慮すべき者として考えなければならない。(信仰によってわたしは生きる 256)

当世風に着飾った若い女性が通りにいた数名の紳士のわきを過ぎるときに、そのうちの一人が彼女についていくつか尋ねた。答えは、「彼女は自分の父親の家で美しい飾りを作っています。しかし、それ以外は何の役にも立ちません」であった。(教会への証 4 巻 644)

旅行中、わたしは家庭の義務のための準備がまったくできないまま結婚生活に入った女たちが幸せでないことを見た。彼女たちは、もっとも厳粛な誓いによって果たすことに同意した責任のある立場にふさわしくなるための訓練や教育を若いときに受けなかった。親は大きな間違いを犯した。子供のときに、彼らは「思いを豊かにするために」骨折り仕事を免除された。彼らは楽器を弾くことはできたが、責任を引き受ける教育を受けなかった。彼らは自分たちの思いを小説に没頭させたが、自分たちの家を秩序のうちに保とうとする愛好心はなかった。……青年たちの品性は甘やかしすぎる母親によって台無しにされてはならない。親は、自分たちが家庭の仕事や経済において自分たちの娘を徹底的に教育することを怠るとき、彼女たちの将来の結婚生活を惨めにするような品性を与えているのだということを、考慮すべきである。(健康改革者 1873 年 5 月 1 日)

わたしは主の御霊によって、ふるまいの慎ましさを大切にし、恥を知る節度をもって、控えめになることを、信心を公言するわたしの姉妹たちに強く勧めるようにとかりたてられるのを感じる。(教会への証 2 巻 459)

5月6日

結婚はわたしの奉仕を さらに増進するであろうか

「もし妻に結ばれているなら、解こうとするな。妻に結ばれていないなら、妻を迎えようとするな。しかし、たとえ結婚しても、罪を犯すのではない。また、おとめが結婚しても、罪を犯すのではない。ただ、それらの人々はその身に苦難を受けるであろう。わたしは、あなたがたを、それからのがれさせたいのだ。」(コリント第一 7:27,28)

親や子供、妻、夫、土地、あるいはそのほか地上のどんな宝でも、友人であれ所有物であれ、利己的に愛することによって、思いや時間や奉仕を神からそらさせる偶像としてはならない。富を愛して仕える人は、神を最高に愛して仕えることはできない。友人や関係を不適切な愛情をもって愛するとき、彼らは神のおられるべき場所を心から奪うようになる。……

真理を受けた人はみな、個々に自分で神の許へ行き、神の口から出る一つ一つの言葉によって生きる決心をしなければならない。第三天使のメッセージを信奉する人々は、人間を頼みとしてはならない。(ホーム・ミッションナリー 1894 年 12 月 1 日)

現実の生活には、影や悲しみがある。すべての魂に問題が訪れる。サタンはつねにすべての人の信仰を揺るがせ、勇気と希望をくじこうと働いている。あなたの夫は、死が分かたずまで愛し、大切にすると自分が誓った女性の性質がどのようなものであるかを見て、恐ろしいことに気がついた。彼は自分が、自分のことしか考えない人に縛られているのを知る。あなたの想像上の試練、あなたの作り出した身体的障害は、前途をもっとも悲観的にする。(原稿リース 16 巻 311)

わたしはバトラー長老のうちに、有用な人、知性と聖書研究の人を見る。彼の伝道は、もしその働きにおいて彼を助けることのできる女性と一緒になら、はるかにもっと価値のあるものとなる。控えめで知的な女性の助けがあれば、彼がどれほどのことができるか、考えてみなさい。彼はひとりで生活し、ひとりで旅行するままにしておいてはならない。彼が良い妻を見つけるのが早ければ早いほど、彼のための働きには益となる。妻は男の同伴者がしてあげられないことを彼のためにすることができる。たとえば、彼の衣服に気を配り、それにほころがっていないか、彼がいつでも大会衆の前に立つ準備ができているかを調べることができる。(リタヤメント・イーズ 118,119)

キリストの任務に集中する

「わたしはあなたがたが、思い煩わないようにして欲しい。未婚の男子は主のことに心をくばって、どうかして主を喜ばせようとするが、結婚している男子はこの世のことに心をくばって、どうかして妻を喜ばせようとして、その心が分れるのである。未婚の婦人とおとめとは、主のことに心をくばって、身も魂もきよくなろうとするが、結婚した婦人はこの世のことに心をくばって、どうかして夫を喜ばせようとする。わたしがこう言うのは、あなたがたの利益になると思うからであって、あなたがたを束縛するためではない。そうではなく、正しい生活を送って、余念なく主に奉仕させたいからである。」(コリント第一 7:32 ~ 35)

わたしたちはキリストがその昇天の直前に、ご自分の弟子たちにお与えになった任務がわたしたちにも与えられていることを信じると主張している。わたしたちはそれを果たしているであろうか。(レビュー・アンド・ヘルド 1903 年 3 月 3 日)

あなたがたは両方とも、より大きな神への献身を促進すべきである。謙遜に見張る唯一の道は、祈りをもって見張ることである。一瞬たりとも、座ってひとりで楽しみ、自分自身の楽しみと便利さを検討することができると思ってはならない。キリストの生涯がわたしたちの模範である。このお方は悲しみの人で病を知っておられた。このお方は傷つけられ、砕かれた。あなたは自分の立場にあまりにも満足している。あなたはたえず見張る必要がある。さもなければ、サタンはその巧妙さであなたを欺き、あなたの思いを墮落させ、矛盾と徹底的な闇の中へと導く。あなたの警戒は、神に依存する謙遜な誠心によって特徴づけられているべきである。それは誇り高い自己に信頼する精神ではなく、自分の個人的な弱さの深い自覚と神の約束への幼子のような信頼をもってなされるべきである。

今、第三天使のメッセージの真理を宣布するという働きは、そのメッセージが当初始まったとき、すなわち人数が少なく、わたしたちが狂信者だと思われていたときより、たやすくやりやすい。メッセージの発生および初期の進展において責任を担った人々は、戦いと悲嘆と魂の苦悩が何であるかを知っていた。夜も昼も、重荷が彼らに重くのしかかった。彼らは苦しみに押しつぶされているときでさえ、休息や都合は考えなかった。(教会への証 3 巻 326)

5月8日

わたしたちの選択を支配すべき 現代の真理

「不信者と、つり合わないくびきを共にするな。義と不義となんの係わりがあるか。光とやみとなんの交わりがあるか。キリストとベリアルとなんの調和があるか。信仰と不信仰となんの関係があるか。」(コリント第二 6:14,15)

世は、つりあいの取れていない結婚の結果、今日、悲惨と罪で満ちている。多くの場合、夫と妻が、自分たちの気質が決して交じり合うことのできないものであることに気づくのにな数ヶ月しかかからない。そして、その結果は、天の愛と調和だけが存在すべき家庭の中に不一致が行き渡ることになる。……

世俗的な姻戚関係を形成することは危険なことである。サタンは、多くの若い男女の結婚に立ちあう時が、彼らの宗教的な経験と有用性の歴史を閉じることがよく知っている。しばらくは、彼らはクリスチャン生涯を送る努力をするかもしれない。しかし、彼らの奮闘に対して、ことごとく反対方向へむかう着実な感化力が逆らって作用するのである。かつては自分たちの喜びや希望を語ることを特権として感じたが、まもなく、彼らは運命を共にするために結び連なった人がこれらの事柄に関心を持っていないのを知って、会話の話題にしようとしなくなる。こうしてサタンは、知らぬうちに彼らの周りに懐疑論というくもの巣を巻きつけて、尊い真理を信じる信仰は心から死滅してしまうのである。(ユース・インストラクター 1899年 8月 10日)

神の真理は他のなにものよりも尊いものとされるべきである。そして妻を得るために真理を犠牲にしようとする男は、神の律法に対する彼の評価が非常に低いレベルだということ、また自己満足が「主はこう言われる」にまぎって浮上していることを表している。自分自身の衝動を神のみ言葉よりも優先する男について、女は非常に恐れるほうがよい。なぜなら、彼は結婚が意味することについて、正当な評価をしていないからである。自分の妻を、神への不忠実によって得る者は、自分たちの結婚に神の祝福がとどまることを期待することはできない。彼は発覚を恐れて嘘をつき、自分のきよくない情欲を満足させたり、自分の恋にふけったりするために神の律法を犯すが、幸せになれないのである。自分の神に対して忠実でない者は、自分の妻に対して忠実になることはできない。(原稿別冊 10 巻 191)

わたしたちはだれの交わりを 大事にしているか

「ふたりの者がもし約束しなかったなら、一緒に歩くだろうか。」(アモス 3:3)

わたしたちは終わりの時代に生きており、結婚の主題に関する熱狂ぶりがキリストの来臨の近いしるしの一つとなっている。これらの問題において神は勧告を求められていない。神に捧げられていない心の衝動を実行に移すために、宗教、義務、原則が犠牲にされている。当事者の結合をめぐって、大々的な見せびらかしや大喜びがあるべきではない。幸せな結果に終わる結婚、神の承認を得て、当事者たちがより神に栄光を帰す立場におく結婚は、百に一つもない。みじめな結婚の邪悪な結果は、数知れない。それらは衝動から取り結ばれたのである。問題を公平に再考することはほとんど考えられず、経験者の助言は、時代遅れだと見なされている。

衝動と聖化されていない情欲が、純粋な愛の代わりに存在している。多くの人々が単に恋愛感情を喜ばせるために結婚関係に入ることによって、自分自身の魂を危険に陥れ、神ののろいを自分たちにもたらしている。……真理を信じると公言する者が、……不信者と結婚することによって大変な間違いを犯してきた。彼らは不信者の相手が真理を信奉するようにとの希望を抱いてきた。しかし、自分の目的が果たされると、彼はますます以前よりも真理から遠ざかる。そして信じている者を信仰から引き離すための敵の巧みな働きと絶え間ない努力を始めるのである。……

ときどき次のような嘆願がなされる。不信者は宗教に好意的であるし、連れ合いとして望ましい点をすべて持っている、ただ一点だけ一彼がクリスチャンではないということ一を除いては。信徒たちがよりよい判断力で、不信者と生涯にわたって結合することの不適正さを提言しても、十のうち九割は、傾向が勝利する。祭壇で誓いがなされる瞬間から霊的な衰退が始まる。宗教的な熱意が弱まり、砦が次々と陥落し、ついには両者ともサタンの黒い旗印の下に、相共に立つようになる。(教会への証 4 巻 503 ～ 505)

何百もの人々が、改心していない人と結婚した結果、キリストと天国を犠牲にしてきた。キリストの愛と交わりが彼らにとってあまりにも価値が低いために、みじめな死すべき人間との交わりの方を選ぶということがあり得るであろうか。(同上 507)

5月10日

不信者がさ迷い出させる

「また彼らと婚姻をしてはならない。あなたの娘を彼のむすこに与えてはならない。かれの娘をあなたのむすこにめとってはならない。それは彼らがあなたのむすこを惑わしてわたしに従わせず、ほかの神々に仕えさせ、そのため主はあなたがたにむかって怒りを発し、すみやかにあなたがたを滅ぼされることとなるからである。」
(申命記 7:3,4)

不信者に愛情を捧げることの危険性が認識されていない。若い人の思いの中では、結婚がロマンスでまとわれていて、想像力でおおわれたこの特徴をはぎとり、またその思いに結婚の誓いにかかわる重い責任の自覚を印象づけるのは難しい。この誓いは、死の手のほか何ものも断ち切ることのできない二人の個人の運命を結びつける。……

結婚生活の幸福と繁栄は、当事者の一致にかかっている。肉の思いが、いかにしてキリストの思いに同化している思いに調和することができるであろうか。一人は肉に蒔き、自分自身の心の衝動に従って考え、行動しているのに対し、もう一人は霊に蒔き、利己心を抑え、傾向に勝利し、自分が僕だと公言している主人への従順のうちに生きようと努めている。このように、嗜好にも、傾向にも、目的にも永続的な違いがある。信徒が、原則にしっかりと固着することによって、悔い改めない者を勝ち取るのであれば、その人は、往々にしてそれが常であるように、落胆して、天とは何の関係もない人とのみじめな交わりのために、自分の宗教的な原則を売り渡してしまう。

神は、昔のご自分の民に、他の民との雑婚を厳しく禁じられた。いま、この禁止はヘブル人が偶像礼拝者と結婚し、異郷の家族とつながりを形成することを防ぐためにもうけられたのだという嘆願がなされる。しかし、異教徒たちは、今日の悔い改めない人々、すなわち真理の光を持っていながら、なお頑固にそれを受けることを拒む人々よりも、望ましい状態にあった。今日の罪人たちは、福音の光がその周りをはっきりと照らしている分だけ、異教徒よりも罪深い。彼は良心を犯しており、故意に神に対する敵となっている。(教会への証 4 巻 507,508)

親の知恵を尊重する

「わが子よ、あなたは父の教訓を聞き、母の教を捨ててはならない。」(箴言 1:8)

イサクは、世界の祝福となる約束の相続人となり、神から大きな栄誉を受けた。しかし、彼が四十才のとき、経験豊かで神を恐れるしもべに命じて、彼の妻を選ばせるといふ父の判断に従った。(人類のあけぼの上巻 186)

まだ十代を出ない若者は、自分と同じように相手が一生の伴侶として適当かどうかの判断に欠けている。(アドベンチスト・ホーム 77)

未成熟な結婚は、今日存在する莫大な量の悪を生み出している。人生のあまりに早い時期に入った結婚生活によって、身体的な健康も精神的な活力も促進されない。この主題について、あまりにもわずかな理性しか働かされていない。多くの若者は衝動から行動する。この一歩、すなわち一生の祝福もしくはのろいとなるべき善か悪へ深刻な影響を与える一歩が、あまりにもしばしば性急に、気持ちの衝動の下に踏み出される。多くの人々はこの問題において理性や教えに耳を傾けようとしない。彼らはこの問題をクリスチャンの見地から考えることに気乗りがしない。

学校の生徒によって婚姻関係を形成するのは、正しいことでも適切なことでもない。若い男女は、人生の責任を負うのにあらゆる方法において適性がなく、自分たちの愛情を守らない。そして多くの自分自身の世話をするのにあまりにも若すぎる者、自分自身の思いを知るのに若すぎる者、すなわち家庭を幸せにし、自分自身を扶養することができるかどうかを一度も試されたことのない多くの者が、結婚生活の責任を引き受ける。

多くの母親が、それまで親を敬い、従順であった息子や娘が、この重要な関係に関して助言を受け入れないために、墓に下ってきた。青年は親や友人の勧告に関係なく、神の承認に無頓着にこの一歩を踏み出す。このお方の「あなたの父と母を敬え」というご命令が無視されるため(出エジプト記 20:12)、このお方の約束は成就することができない。このお方の祝福は向こう見ずなわがままの道をとる人々とどまることはできない。(ユース・インストラクター 1899 年 8 月 10 日)

5月12日

わたしのために神に選んでいただく

「家と富とは先祖からうけつぐもの、賢い妻は主から賜わるものである。」(箴言 19:14)

キリストのうちにあるときにはじめて結婚の縁組は安全である。人間の最も親密な愛のきずなは神の愛から受けるべきであり、キリストが支配なさるところにのみ深い真の無我の愛がありえるのである。

愛はわたしたちがイエスから受ける尊いたまものである。純潔な、清い愛情は感情ではなく、一つの原則である。真の愛に基いて行動する者は不合理でも盲目でもない。聖霊によって教えられ神を第一に愛し、隣人をおのれのごとくに愛するのである。

結婚しようと考えている人は一つ一つの感情をよく考え、生涯の運命を共にしようと思う相手に表われてくる品性のあらゆる発達とあらゆる情操を一つ一つよく見守るべきである。そして結婚の縁組に至るまで、しとやか、単純、真実、それに、神を喜ばせ、あがめる熱心な気持をもって一步一步進むべきである。結婚はこの世におけるその人の将来にも、また、きたるべき国における生命にも影響を及ぼす。真実のクリスチャンは神が承認できないような計画を立てることをしない。

神をおそれる、敬けんな両親に恵まれているならばその助言を求めなさい。自己の希望と計画を発表し、両親が生涯のうちに経験し、学んだ教訓を聞きなさい。そうすれば多くの心痛を防止することができよう。しかし、だれよりもまず、キリストを相談相手とし……なさい。

こうした指導のもとに若い婦人は、純潔で男らしい性質をもち、勤勉で大望に燃え、正直で、神を愛し、おそれる人だけを配偶者として受け入れるべきである。また青年は妻の分としての人生の重荷を負うに適した人、その感化が自分を向上させ、精練し、その愛が自分を幸福にするような人を伴侶として求めるべきである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 330,331)

もし男や女が、結婚を考える前に一日に二回祈る習慣があれば、彼らはそのような一歩が予定されているときには、一日に四回祈るべきである。結婚はあなたの一生を、現世においても来世においても感化を与え、影響するものである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1888年9月25日)

キリストのような愛の泉

「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなし。」（詩篇 127:1）

もしわたしたちが神のみ言葉を行う者であれば、わたしたちは神の御声に注意を払い、自分たちの十字架をになってイエスの後に従い、時々刻々自己を屈服させる。神の律法が心のうちに記されなければならない。さもなければ、わたしたちは決してその聖なる規則を実行することはない。わたしたちは神の御霊を持たなければならない。さもなければ、家庭の中で決して調和を持つことはできない。妻がもしキリストの御霊を持っているならば、自分の言葉に注意する。彼女は自分の精神を支配し、従順なものとなるが、自分が奴隷のように感じることはなく、自分の夫の連れ合いであることを感じる。もし夫が神の僕であれば、彼は自分の妻に対して威張ることなく、専横的になったり、厳しくなったりしない。わたしたちは家庭の愛情を大切にするのに、注意を払いすぎることはない。なぜなら、主の御霊が宿るなら、家庭は天の型だからである。

もし主のみ旨が実行されるなら、夫と妻は互いに敬い、愛する。そして家族の輪の平和と一致を傷つける傾向のあるものは何でも抑制される。親切と愛、優しさと寛容の精神が大切にされる。わたしたちが他の人々に与える愛は、自分たちに反射して戻ってくる。わたしたちは蒔いたものをまた刈り取るのである。もし栄光の望みであられるキリストが内に形づくられるなら、夫と妻は互いに自分たちの不適応さについて話すことはない。もしキリストが妻の心に宿っているならば、夫の心にキリストが宿しているとき、彼と同意する。もし一方が過ちを犯すと、もう一方がキリストのような寛容を働かせ、互いに冷たく離れていくようなことはない。

もし神のみ言葉に従うなら、家庭は最高の種類の伝道の働きを中心地となるが、家庭生活において不一致の状態にあり、主の言葉を実践しない人々は、キリストの恵みによって変えられない限り、決して天の住まいに入るのにふさわしくなることはない。もし主が天に入ることを彼らに許されても、幸せではないであろう。なぜなら、彼らはそこで自分たちを喜ばせないようなものを見つけるからである。地上で決して愛さなかっただれかが天にいて、彼らはその人たちを祝福の場所から追い出したいと願うことであろう。（原稿別冊13巻77,78）

5月14日

互いに高めあう

「妻を得る者は、良き物を得る、かつ主から恵みを与えられる。」(箴言 18:22)

あなたの結婚生活において、互いに高めあうよう努めなさい。ありふれた安っぽい話や行動に身を落としてはならない。あなたの日常の会話とともにもプライベートな人生の歩みにおいて、その聖なる信仰の高尚な人を高める原則を示しなさい。つねに互いの感情に気をつけ、優しくありなさい。あなたがたのうちいずれも、初めてであっても、ふざけて、からかうように、冗談交じりに互いをとがめるのを許してはならない。これらのことは危険である。それらは傷つける。傷は隠せたとしても、現にその傷は存在しており、平安は犠牲にされ、幸福は危険にさらされる。……

いつも親切に話しなさい。あなたの声に、他の人がいらだちだと受け取るような調子を入れてはならない。あなたの声の調子でさえも調節しなさい。ただ愛と親切と温和さだけがあなたの表情とあなたの声に表現されるようにしなさい。自ら進んで日光を降り注ぎ、決して雲を残してはならない。……

たとえ、あなたの方針があなたには正しいとしか思えなくとも、頑固になってはならない。あなたは人に譲り、寛容になり、親切で、優しい心を持ち、あわれみ深く、礼儀正しくあり、いつも生活上の小さな礼儀や、優しい行動、優しく快活な励ましの言葉を生き生きと保っていなければならない。(天国で 204)

もし男が、また女も、愛を生き生きと保ち、自分の好む連れ合いを得るために必要だと感じた敬意と注意と感謝の優しい言葉や生活上の小さな礼儀を培い続けるならば、どれほど多くの問題となんとという苦悩と不幸の潮を避けることができることであろう。もし夫と妻がただ愛を育むこれらの注意を培い続けさえすれば、彼らは互いの交わりのうちに幸福になり、彼らの家族には聖化する感化力が及ぶようになる。彼らは自分たちのうちに幸福の小さな世界を持ち、この世界の外に出て、新しい魅力や新しい愛の対象を求めようとの願いを持つことはない。(同上 206)

自分自身の関心をイエス・キリストと結びつけ、このお方のみ腕とその保証にたよるとき、夫と妻は神の御使たちが称賛するこの一致のうちに幸福を分かち合うことができる。結婚は彼らの有用性を減じることなく、かえって強化するのである。(信仰によってわたしは生きる 259)

わたしたちの家庭をうるわしくする

「すべて主をおそれ、主の道に歩む者はさいわいである。あなたは自分の手の
 勤労の実を食べ、幸福で、かつ安らかであろう。あなたの妻は家の奥にいて多くの
 実を結ぶぶどうの木のように……ある。」(詩篇 128:1～3)

多くの人々は、自分たちの家庭生活において、あまりにも外見を保とうと一生
 懸命になるがゆえに不幸である。彼らは自分たちの仲間一実(ひとみ)は彼らのためにも彼
 らの繁栄のためにも気にかけていない人々の賞賛を得るために、多くの資産を
 費やし、際限なく労する。家庭の備品のために、品物が次々と必要不可欠だと
 みなされ、ついには多くの高価なもの、すなわち目には一時の満足を与えるが、
 家族には少しも心地よさを増し加えないものが加えられることになる。同時に、
 すべてこれらの物は、強さや忍耐に重い負担をかけ、主の奉仕に費やされるべ
 き貴重な時間を消耗してしまう。

神の尊い恵みは、本当の重要性はない事柄の二の次とされており、楽しみの
 ために物を集めながら、その一方で幸福のための余地をなくしている。彼らは自
 分たちの所有物が、それらによって得るであろうと期待した満足を与えないこと
 を見出すようになる。……

衣服や家の飾りが、幸福な人々を作ることはない。かえって、柔和と親切と愛
 を持つことにより、もっともいやしい住まいがうるわしくされ、もっとも貧しい家
 族が富んだものにされる。気持ちのよい声、優しいふるまい、またすべての行動
 のうちに表現される真心からの愛情は、あばら屋でさえもっとも幸福な家庭とし、
 そこを創造主は是認をもって眺め、天使たちは引きつけられるのである。(健康
 改革者 1876 年 11 月 1 日)

愛情が水晶のようにきれいで、その純潔さにおいてうるわしいものであっても、
 それでもテストされ、試されていないがために浅いことがある。キリストを万事に
 つけ、最初と最後と最高としなさい。絶えずこのお方を眺めなさい。そうすれば
 このお方を愛するあなたの愛は、試練のテストに服するとき、日ごとにますます
 深くますます強くなる。そしてこのお方を愛するあなたの愛が増すにつれ、互い
 に対するあなたがたの愛は、ますます深くますます強く成長するのである。(信
 仰によってわたしは生きる 252)

5月16日

キリストの態度を覚える

「雨の降る日に雨漏りの絶えないのと、争い好きな女とは同じだ。」(箴言 27:15)

ある〔妻たち〕は、……自分たちの夫にとって何の助けにもなっていないが、それでも第三天使のメッセージを公言する。彼らは、神のみ旨や、いかに自分たちの忠実な祈りや注意深い歩みによって自分たちの夫の手を支えることができるかよりも、自分自身の願いや喜びを研究する。わたしは彼らのうちのある者は、非常に頑固で利己的な道を選ぶために、サタンが彼らを自分の道具となし、彼らを通してその夫の感化力や有用性を台無しにしているのを見た。彼らは自分たちが少しでも苦境におかれると、平気で不平を言い、つぶやく。彼らは昔のクリスチャンたちが真理のためにどれほど苦しんだかを忘れている。そして彼らは自分たちの願いややり方を通し、自分自身の意志どおりにしなければ気がすまない。彼らは自分たちの主人であられるイエスのお苦しみを忘れている。彼らは病を知っておられた悲しみの人—まくらするところもなかったお方を忘れている。彼らはいばらの冠が刺し通した聖なる額を覚えていようともしない。彼らはご自分の十字架をカルバリーまで背負い、その重さで倒れてしまわれたお方を忘れている。ただ木の十字架の重さだけではなく、世の罪の重荷がこのお方にのしかかった。彼らは、このお方の優しい手足に打ちこまれた残酷なくぎや、このお方が今際の息であげられた「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という、苦悩の叫びを忘れている(マルコ 15:34)。彼らのためにこれらすべての苦しみを耐えられたにもかかわらず、彼らはキリストのために苦しむことを非常にいやがるのである。

これらの人々は、自らを欺いているのを、わたしは見た。彼らはこのことにおいて、何の役割も分もない。彼らは真理をつかむが、真理は彼らをつかんでいない。真理、すなわち厳粛で重要な真理が、彼らをつかむとき、自己は死ぬ。そのときの言葉は「わたしはあそこに行こう、ここにしよう」とはならず、真剣な問いは、「神はわたしに何をおさせになりたいであろうか。どこでわたしは最高にこのお方に栄光を帰すことができるであろうか。そしてどこで、わたしたちの一致した働きは、最善をなすことができるであろうか」となる。彼らの意志は神のみ旨のうちにのみ込まれるべきである。(教会への証 1巻 137,138)

この地上における神の民の家庭は、できるかぎり、神が御座を持っておられる天の家庭の象徴となるべきである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1903年10月28日)

自然の単純さにおける喜び

「家は知恵によって建てられ、悟りによって堅くせられ」(箴言 24:3)

イスラエルのための神のご計画において、すべての家族は十分な耕作のための用地がある土地に家庭を持った。こうして有益で勤勉な自活できる手段と動機の両方が与えられる。そして、人の考案がこのご計画を改善したことはかつて一度もない。

地には、勇気を持ち、辛抱強くその宝を集めようとする人々のために、その深みに隠された祝福がある。一片の土地と快適な家庭を持つ父親と母親は、王と女王である。

高価な住まい、精巧な家具、見せびらかし、贅沢、安逸は、幸福で有益な生活に重要不可欠な条件を与えるものではない。イエスはこの地上にかつて人の間でなされた中で最も偉大な働きを成し遂げるために来られた。このお方は、わたしたちに人生の最高の結果を得るためには、どのように生きるべきかを示すために、神の大使として来られた。無限なる御父がご自分の御子のために選ばれた状況はどのようなものであっただろうか。ガリラヤの丘の引っ込んだ住まい、まじめで自尊心のある労働、単純な生活、困難や苦勞との日々の闘い、自己犠牲、節約、そして忍耐強く喜ばしい奉仕、このお方の母親の傍らで、聖書の巻物を開いての研究の時間、緑の谷の静かな夜明けとたそがれ、自然の聖なる奉仕、創造とみ摂理の研究、そして魂の神との交わり—これらがイエスの地上生活の状況であり、機会であった。(信仰によってわたしは生きる 260)

もし愛と満足さえあれば、非常に簡素な家でも趣味を働かせることによって魅力的な感じのいいものにすることができる。……

どんなに貧しくても、いなかに住んでいれば、ほとんどだれもが家の周囲にいくらかの芝をもったり、数本の木や花の咲く灌木や、かおりの高い草花を植えることができる。それがどんな人工的な装飾よりもはるかに家族を幸福にするであろう。それは家庭生活に温和な、高尚な感化をもたらし、自然を愛する愛を強め、家族の者を互に親しませ、神に近づかせる。(ミニストリー・オブ・ヒーリング[®] 340,341)

5月18日

わたしの妻に感謝する

「あなたの泉に祝福を受けさせ、あなたの若い時の妻を楽しめ。」(箴言 5:18)

わたしたちの世には、自分たちに与えられるべき愛と同情に飢えている人々が多くいる。多くの男は、自分の妻を愛しているが、あまりにも利己的でそれを表さない。彼らは誤った尊厳と誇りを持ち、自分たちの愛を言葉や行いによって示そうとしない。妻の心がどれほど優しい感謝や愛情の言葉に飢えているかをまったく知らない男が多い。彼らは自分たちの見えないところに愛する者たちを葬り、彼らから伴侶を奪った神のみ摂理をつぶやくが、もし彼らの目がそうした伴侶の内なる生活を見ることができれば、彼らは自分自身の取った行動が、その時期尚早な死の原因であったことを知る。キリストの宗教はわたしたちを親切で、礼儀正しく、またあまりにも自分たちの意見に固執することがないよう導く。(教会への証 3 卷 527,528)

日々、いろいろなわずらわしいことで、老若を問わず悩まされる。忍耐と愛の満ちた明るい生活を願うものは祈らなければならない。神から絶えず助けを得なければ、自分に勝つことはできない。

家庭は喜びと礼儀と愛が宿るところであるべきである。こうした美德があるときに幸福と平安が来る。悩みが生ずることがあるが、それは人類が当然受けるものである。たとえ、どんなに暗い日があっても忍耐と感謝と愛によって心に光を持っているべきで、そういう家庭には神の使が宿るのである。

夫も妻も相互の幸福を計り、生活を気持よく、明るくするような細かい礼儀や、ちょっとした親切な行為を決して怠ってはならない。完全な信頼が夫婦の間にあるべきである。自分たちの責任をともに考え、ともに子供の最高の利益を計るべきで、決して子供の前でお互の計画を非難し、お互の判断を疑ってはならない。妻は子供に対する夫の働きを困難にしないように注意し、夫は妻の手をささえ、賢明な助言を与え、愛のこもった励ましを与えなさい。(ミストリ・オブ・ヒーリング 362)

家庭で喜んで生活する

「日の下で神から賜わったあなたの空なる命の日の間、あなたはその愛する妻と共に楽しく暮すがよい。これはあなたが世にあってうける分、あなたが日の下で勞する労苦によって得るものだからである。」(伝道の書 9:9)

夫は、型であられるお方を研究し、エペソ書の中で提示されている象徴、キリストが教会を支えている関係が、何を意味しているかを知らうと努めるべきである。夫は、自分の家庭の中で救い主のようであるべきである。彼はその気高い、神から与えられた男らしさのうちにあり、常に自分の妻と子供たちを高めようと努めているであろうか。彼は純潔な芳しい雰囲気をも自分の周りにただよわせているであろうか。彼は勤勉にイエスの愛を培い、自分の権威を行使するときに、イエスの愛を自分の家庭の永続的な原則とするであろうか。すべての夫かつ父親は、偏った方法で単に妻が自分の夫に服従することばかりを考えて、キリストのみ言葉を理解するために研究するのではなく、家族の輪の中で自分自身の立場に関してカルバリーの十字架の光の中で研究すべきである。……

イエスは、ご自分が聖霊の感化によってわたしたちをすべての罪と汚れから清め守ることができるように、十字架上で死にご自分を渡された。(原稿リ-ス 21 卷 216)

神のみ言葉はわたしたちの標準であるが、このお方の民だと公言する人々は、なんとそれからかけ離れていることであろう!わたしたちの宗教的信仰は、単に理論的ではなく、实际的でなければならない。純粹で汚れていない宗教は、神の被造物の最も小さいものの権利を踏みじめることを許さない。このお方の体の肢体であり、自分自身の家族の一員であれば、なおさらである。神は愛である。そしてこのお方のうちに宿る人はだれでも愛のうちに宿る。だれかによって雲のように運ばれてくる世的な利己心の感化力は、他の人々が呼吸する大気を凍らせ、魂の病気を生じさせ、しばしば凍え死にさせる。

純潔で無我の愛と私心のない寛容を培うのはあなたにとって大きな十字架であろう。あなたの意見と考えを譲り、あなたの判断を捨てて、他の人々の勧告に従うのは、あなたにとって大きな十字架であろう。……あなたはイエスに自分のそば近くに来ていただく必要がある。あなたの家庭に、あなたの心にこのお方にいていただく必要がある。……キリストの義は、純粹で無我の動機から生じる正しい行動と良いわざによって構成されている。(教会への証 3 卷 527,528)

5月20日

生活の一致

「創造者は初めから人を男と女とに造られ、そして言われた、それゆえに、人は父母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである。彼らはもはや、ふたりではなく一体である。だから、神が合わせられたものを、人は離してはならない。」(マタイ 19:4～6)

キリストが治めておられるところにのみ、深くて真実な無我の愛が存在できる。そのとき、魂は魂と結びあわせられ、二つの命は調和のうちに混じり合う。(信仰によってわたしは生きる 252)

結婚の儀式が執り行われたときに完全に一致している夫婦はほとんどいない。結婚の誓いを行う二人に語られた決まり文句が、彼らを一つにするわけではない。彼らの将来の生活が、結婚生活における二人の混じり合いとならなければならない。もし各々、お互いが真の心からの愛情を与えるならば、それは実に幸福な一致となることができる。

しかし、想像力が結婚に着せていたロマンスは、時がそこからはぎとる。そのとき、サタンのほのめかしを通して、思いに次の思想が入るすきを見つける、「わたしたちは思ったほど互いに愛してはいない」。その思想を思いから追い出さない。それをいつまでも考えてはならない。各々、自分を忘れて、サタンがあなたに考えさせたいと思うような考えをいただくのを拒否しなさい。あなたがたの愛情が互いに疎遠になるように、ほとんど理由にならないような一つ一つの小さいことに、あなたが疑い深く、嫉妬させるのが、サタンの仕事である。……ロマンスが過ぎ去ったら、各々、感情的なやり方ではなく、いかにして自分が結婚生活を神の喜ばれるようなものにできるかを考えなさい。

生涯は神からの尊い賜物であり、利己的な後悔やさらにあからさまな無関心や嫌悪感によって無駄にされてはならない。夫と妻は何でも一緒に話しなさい。互いへの初めのころの関心を新たにし、互いに自分の過ちを認めあいなさい。しかし、この働きをするときに、夫が妻の過ちを告白することを引き受けたり、妻が自分の夫の過ちを告白したりすることのないよう、非常に気をつけなさい。あなたは、互いのために自分が可能な限りすべてのものになることを決心しなさい。そうすれば、結婚の契りは最も望ましい絆となる。あなたの家庭は、天の象徴とすることができる。(天国で 203)

積極的に離婚を避ける

「あなたがたはみずから慎んで、その若い時の妻を裏切ってはならない。イスラエルの神、主は言われる、「わたしは離縁する者を憎み」(マラキ 2:15,16)

多くの結婚は、ただみじめさを生みだすばかりであるが、なお若者たちの思いは、この流れへと走る。なぜなら、彼らが自らを制することも家族を養うこともできないときに、幸せになるためには結婚しなければならないとサタンが信じ込ませることによって、そこへ導くからである。不愉快な不一致や争いを避けるために、自らをお互い相手の気質に合わせるつもりのない人々は、結婚に踏み込んではいない。(教会への証 5 巻 122,123)

すべての夫婦にとって、慎重に相手の感情を傷つけることを避けることは義務である。彼らはすべてのいらだちや感情的な顔つきを制すべきである。彼らは、大事におけるのと同様に小事においても優しい思いやりを示すことによって、また親切な行為や小さな礼儀を認めることによって、互いの幸せを研究すべきである。これらの小さい事柄はなおざりにされるべきではない。なぜなら、それらはちょうど食物が体力を維持するのと同様に、男女の幸福にとって重要だからである。父親は、妻であり母親である者に、自分の大きな愛情に頼るよう励ますべきである。彼からの親切で快活な励ましの言葉は、生涯の幸福を彼に預けた者にとって、どんな薬よりも益がある。そして妻であり母親である者の心にもたらすそのような同情の言葉の快活な光線は、自分自身の快活な光線を父親の心にも反射するのである。(ビュー・アンド・ヘルド 1899 年 7 月 18 日)

神の御霊が統治なさる所では、結婚関係における不相応について語られることはない。

困難や困惑や失望が生じるであろうが、夫も妻も自分たちが一緒になったことが過ちあるいは失望であったという考えを抱いてはならない。互いにとって、可能な限りすべてのものになろうと決心しなさい。初めのころの関心を持ち続けなさい。あらゆる方法によって、人生の闘いを戦うときに互いに励まし合いなさい。互いの幸福を向上させるために研究しなさい。相互の愛、相互の寛容があるようにしなさい。そのとき、結婚は、愛の終焉となる代わりに、まさに愛の出発点となる。(信仰によってわたしは生きる 253)

5月22日

今日の一般的な姦淫を遠ざける

「すべて自分の妻を出して他の女をめとる者は、姦淫を行うものであり、また、夫から出された女をめとる者も、姦淫を行うものである。」(ルカ 16:18)

わたしたちの救い主はその警告の中で、世の終わりがどのようなになるかをわたしたちに教えて下さった。このお方は次のように仰せになる。「人の子の現れるのも、ちょうどノアの時のようであろう。すなわち、洪水の出る前、ノアが箱舟にはいる日まで、人々は食い、飲み、めとり、とつぎなどしていた。そして洪水が襲ってきて、いっさいのものをさらって行くまで、彼らは気がつかなかった。人の子の現れるのも、そのようであろう」(マタイ 24:37～39)。キリストは非常にはっきりと将来の社会の状態がどうなるかをご覧になった。このお方は自己放縦が男女を支配するのをご覧になった。今日結婚関係はどうなっているであろうか。それはゆがめられ、汚され、ノアの時代のようになっているのではないだろうか。離婚に次ぐ離婚が毎日の新聞に掲載されている。これこそ、キリストが洪水前に彼らは「めとり、とつぎなどしていた」と言われたときに示しておられる結婚である。(原稿31-ス7巻56)

神は男に一人の妻をお与えになった。このお方が男にとって一人より多くの妻を持つのが最善だと思われたなら、容易に二人をお与えになることがおできになった。しかし、このお方はそのようなことは認可さなかった。(ユース・インストラクター 1899年8月10日)

わたしが自分の聖書を読むとおり、もしあなたの妻があなたから離婚したとしても、あなたが自由に再婚しても良いということにはならない。(性的態度、姦淫、離婚における証 208)

若い人の心では、結婚というものがロマンスでおおわれているので、想像によって結婚をおおっているこのロマンスという特色をとり去って、結婚の誓約に含まれている重い責任感を心に印象づけることは困難である。この誓約はふたりの運命を死の手しか断つことができないきずなで結び合わせる。

婚約はすべて慎重に考慮されなければならない。なぜなら結婚は一生の歩みだからである。男女共に、彼らが生きながらえる間、人生の浮き沈みを通して互いに離れずついて行けるかどうかを慎重に考慮しなければならない。(7ドベンスト・ホーム 382)

自分たち自身の向こう側を見る

「男子は婦人にふれないがよい。しかし、不品行に陥ることのないために、男子はそれぞれ自分の妻を持ち、婦人もそれぞれ自分の夫を持つがよい。夫は妻にその分を果し、妻も同様に夫にその分を果すべきである。妻は自分のからだを自由にすることはできない。それができるのは夫である。夫も同様に自分のからだを自由にすることはできない。それができるのは妻である。」(コリント第一 7:1～4)

夫と妻は、自分たちの間で愛のしるしを取り交わす互いの交わりのプライバシーを慎むことを、自分たちの特権であり、義務であると感じるべきである。しばらくのあいだ、お互いの愛を表すことはしかるべき場所で正当であるが、既婚者にも未婚者にも害をもたらすかもしれない。全く違った種類の思いや品性、また違った種類の教育や訓練の人々がいて、自分の愛情を自由に表すように自ら教育してきた人々とまったく同様に、献身的にまた健全にお互いを愛する人もある。そして、これらの二人の対照性によって、より慎み深い人々が誤解され、不利になる危険性がある。妻は敬意と服従をもって自分の夫により頼むべきである一方、健全で健康的な方法で、自分が生涯の連れ合いとして選んだ男性への強い愛情と信頼を表すことができる。……

結婚生活においてお互いを幸せにするのがクリスチャンの高尚な特権であり、厳粛な義務であるが、全く夢中になり、愛情の富をすべて互いに対して注ぎ出し、そのような生活にすっかり満足してしまうのは、明らかに危険である。これらはみな、利己心のおいがする。

自分たちの愛と同情を自分たちの中に閉じ込めておく代わりに、彼らは他の人々の益のために貢献するすべての機会をとらえ、神の御目には彼らとまったく同様に尊く、このお方のひとり子の無限の犠牲によって買われた魂への純潔で聖なる愛のうちに、豊かな愛情を分かちべきである。

親切な言葉、同情のまなざし、愛情の表現は、多くの苦闘する孤独な人々にとって、渇いた魂への一杯の冷たい水のようなものである。(天国で 207)

5月24日

不信者の配偶者に対する キリストのような愛

「そのほかの人々に言う。これを言うのは、主ではなく、わたしである。ある兄弟に不信者の妻があり、そして共にいることを喜んでいる場合には、離婚してはいけない。また、ある婦人の夫が不信者であり、そして共にいることを喜んでいる場合には、離婚してはいけない。」(コリント第一 7:12,13)

ある母親が自分の夫は不信者だと言う。彼女には子供たちがいるが、彼らは父親から母親を軽蔑するように教えられている。彼女は自分の子供たちのために深く重荷を感じている。……

あなたがかかえている試練は、非常に苦しい種類のものかもしれない。あなたはしばしば自分に示される軽蔑のために心に痛みを覚えることであろう。しかし、わたしはあなたの子供たちの世話をすることがあなたの義務となるべきことを確信している。これはあなたが定められた働きをする伝道地である。それは、岩だらけで労するのに失望させる土地であろうが、ひるまず、良心的に、あらゆる失望させる状況にもかかわらず、自分の義務を果たすためのすべての努力において、あなたには連れ合いなるお方がおられる。イエスがあなたの助け手であられる。イエスは失われ滅びつつある魂を救うためにわたしたちの世に来られた。そしてあなたはこの働きにおいて自分が神と共に働く共労者であるとみなすべきである。……あなたの夫をいつでも親切に扱いなさい。そして子供たちをあなたの心に愛のひもで結びなさい。これがあなたの働きである。これこそ、あなたが負うべき重荷である。あなたの家庭の試練をイエスの他だれにも話してはならない。それらをイエスの耳に入れなさい。(原稿州ス3巻 369,370)

自らを聖書の方法と手段のうちに教育し、自分自身の家庭で成功した働き人になれるようにしなさい。……不愉快だからと言って、自分の義務の地位を捨ててはならない。今日、沈黙のうちに苦しんでいる生きた殉教者が多くいる。彼らは舌をもって虐待されているときに神に信頼する人、からかわれている人、粗野で無情な非難によって痛みを覚え、傷ついている人、あたかも生きて苦しむのがその人の分であるかのような、ただ自分たちの力の源であられるイエスからのみ慰めを受けている人、このような魂は伝道者である。彼らはキリストの貴い人々であり、彼らの名は小羊の命の書に記されている。

これを覚えていなさい。イエスはそれらすべて—すべての悲しみ、すべての悲嘆—をご存じである。このお方はあなたが沈むがままにはなされない。なぜなら、このお方のみ腕はあなたの下にあるからである。(同上 372)

結婚のうちにある伝道地

「なぜなら、妻よ、あなたが夫を救いうるかどうかわかるか。また、夫よ、あなたも妻を救いうるかどうかわかるか。」(コリント第一 7:16)

ただ一度の人生がわたしたちに与えられている。そして心遣い、骨折り、自制によって、それは耐えられるもの、快いもの、そして幸福なものにさえる。

自分たちの生涯の利害を結合させたすべての夫婦は、互いの生涯をできる限り幸福なものにするよう努めるべきである。わたしたちが重んじるものを維持し、できることなら、ますます価値あるものにするように努めるべきである。結婚の契約によって、男女は取引、すなわち生涯の投資をしたのであって、彼らは自分たちの短気やいら立ちの言葉を制するよう、自分たちの結婚以前よりさらに注意深く、最善の努力をなすべきである。なぜなら、今や彼らの運命は、生涯の間、夫と妻として結合しており、結婚前にあれほど熱心に求め、重んじていた愛を維持し、生き生きと保つために払う骨折りと努力の量にちょうど比例して、それぞれの価値が量られるからである。(この日を神と共に 335)

失望させる言葉があなたに向かって語られたとき、心地よい返答ができない限り、答えてはならない。あなたが不親切な言葉で試され、誘惑されるときに、復讐してはならない。自ら「わたしはわたしの救い主を失望させることはしない」と言いなさい。すべてのクリスチャンである男は紳士であり、すべてのクリスチャンである女は淑女である。親切の律法がいつもクリスチャン女性の唇にある。彼女は性急な言葉を口にしない。あなたがいらだちを感じる時に親切な言葉を語ることは、あなたの心の中に日光をもたらし、あなたの道をよりなめらかにする。学校の女生徒が質問に答えて、「柔和な人というのは、荒々しい質問に対して柔らかい答えを返す人です」と言った。キリストは、「柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう」(マタイ 5:5)。彼らは天の王国にふさわしいものとされる。なぜなら、彼らは教えられることを喜ぶからである。

あなたは自分の夫がまだ真理に改心していないと言う。彼にあなたの生活においてキリストをその言葉通りに信じることの優位性を示しなさい。忍耐、寛容、親切によって、あなたは自分の夫を救い主に勝ち取ることができる。

神の恵みの力のうちに、あなたは最も貴重な勝利を得ることができる。あなたは自分の人生をロマンスとしてではなく、現実として扱うべきである。(原稿リ-ス 8 巻 442,443)

屈服と愛

「妻たる者よ、夫に仕えなさい。それが、主にある者にふさわしいことである。夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない。」(コロサイ 3:18,19)

家庭にいる真の女性は宝である。そして、彼女は尊重されるべきであり、感謝されるべきである。しばしば次の質問がなされる、「妻は自分自身の意志をもつてはいけないのか」。聖書は、夫が家族の頭であることをはっきりと教えている。「妻たる者よ、夫に仕えなさい」。もし、この命令がここで終わっているならば、わたしたちは妻の立場はうらやむようなものではないと言えるであろう。それは非常に多くの場合、非常に厳しくつらい立場であって、結婚が少なければ少ないほど良いであろう。多くの夫は、「妻たる者よ、……仕えなさい」というところで、言葉を止める。しかし、わたしたちは同じ命令の結論に、「主にある者にふさわしい」とあるを読む(コロサイ 3:18)。

神は妻が常に自分の前に神の畏れと栄光をおくようにと要求しておられる。全屈服は、ただご自分の命という無限の価値をもってご自身の子として彼女を買われた主イエス・キリストにのみ捧げられるべきである。神は彼女に良心をお与えになったのであり、それを犯しては、刑罰を受けずにすまない。彼女の個性は自分の夫の中に吸収されてはならない。なぜなら、彼女はキリストに買われたものだからである。盲目的な献身をもって、彼女が万事につけ自分の夫の言いなりになり、サタンの奴隷からあがなわれた自分の体と精神に害をなすと知りながらも、そうすべきだと思うことは間違いである。妻にとって夫よりも高くいらせられるお方がある。それは彼女の贖い主であられ、彼女の夫への服従は、神がお命じになった通り、「主にある者にふさわしい」ものとして捧げられなければならない。

夫が自分の妻に完全な服従を要求し、女には家庭において何の声も意志もなく、ただ完全な服従を捧げるべきだと宣言するとき、彼らは自分たちの妻を聖書に反する立場に置くのである。……わたしたちは続けて、「夫たる者よ、妻を愛しなさい。つらくあたってはいけない」とあるを読む(19節)。なぜ夫が自分の妻につらく当たるべきであろうか。もし夫が、自分の妻が間違いを犯し、欠点だらけであるの見出したとしても、つらく当たる精神は悪の治療法とはならない。(原稿別紙13巻74,75)

わたしの夫に順応する

「キリストが教会のかしらであって、自らは、からだなる教会の救主であられるように、夫は妻のかしらである。そして教会がキリストに仕えるように、妻もすべてのことにおいて、夫に仕えるべきである。」(エペソ 5:23,24)

親愛なる T 姉妹。わたしはあなたの宗教生活に欠陥があることを示された。あなたはあまりにも闘争的な精神を持ちすぎてきた。あなたが自分で考え行動することはあなたの特権であるが、それをあまりにもやりすぎる。あなたは謙遜よりも独立心を持っている。あなたはなだめるよりも、いらだたせるような道を取ってきた。あなたは真理を擁護して立つために、堅固さを持つ必要があった。しかし、あまりにもしばしば、神が非常な価をもって評価なさる柔和でしとやかな精神を持っていないという点において過ちを犯してきた。あなたの家族の中で、あなたは反対や真理への嫌悪の表れに会ってきた。しかし、あなたはこれらの試練に対して、最上の方法で対応してこなかった。あなたはあまりにも口数が多く、あまりにも積極的すぎる。あなたは家族のための、とくに自分の夫のためのあなたの努力に、愛と優しさをあまりにもわずかしか混ぜてこなかった。あなたは、主張を極端にもっていき、物事をやりすぎ、癒すよりも傷つけてしまう危険性がある。あなたが真理の原則を犠牲にすることなく、自分の判断を譲ることができるときは、自分が正しいと思ってもそうする方があなたのために最善である。あなたには、夫に同化吸収させることのできない責任があり、固有性がある。しかしなお、あなたがたを一つにする絆があるのであり、多くのことにおいて、もしあなたがもっと譲る者であれば、そのほうがあなたの夫にとって、あなたの子供たちにとって、そしてあなた自身にとってはるかに良いのである。あなたはあまりにも厳密すぎる。あなたは自分と違っている人々の信頼を得ようと努めない。あなたは有利なことがあるとそれにすばやく気づき、最大限に活用する。もしあなたがもっと美しい愛のまじり合った寛容さを持っているなら、そしてもしあなたがキリストのために、多くのことを利用したり、やりすぎたりせず、それによって不快な感情を生じさせないなら、感化力はより良い、より救うものとなる。(教会への証 2 巻 436, 437)

[R 姉妹]、あなたは自ら自分の願望や願いを否定するようにし、あなたの夫があなたに合わせなければならないと感じるように導くべきではない。……女性になりなさい、きまぐれな子供ではなく。(同上 433)

5月28日

わたしの妻を優しく保護する

「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。……それと同じく、夫も自分の妻を、自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は、自分自身を愛するのである。自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもない。かえって、キリストが教会になされたようにして、おのれを育て養うのが常である。」(エペソ 5:25,28,29)

わが兄弟よ、とげとげしく同情心のないあなたの言葉は、切りつけ傷つける。あなたにとって非難し欠点を見つけるのは非常にたやすいことであるが、それは不幸を生み出すだけである。あなたが他の人々に語る言葉が、もしあなたに語られたなら、あなたはすぐに憤慨することであろう。あなたは親切で優しく同情的であることを弱さとして見ており、優しく、親切に、愛情をもって自分の妻に話すことは、自分の尊厳を低めると考えている。ここであなたは、何が真の男らしさと尊厳を構成しているかについて誤っている。親切な行為をせずにそのままにした気質は、あなたの品性における弱さと欠点の表れである。あなたが弱さだと見ているものを神は真のクリスチャンの礼儀、すなわち、すべてのクリスチャンが働かせるべきものとみなされる。なぜなら、これこそ、キリストが表された精神だからである。(教会への証 2 巻 256)

夫また父親が、イエス・キリストに従う者の保有すべき尊厳のある信心深い男らしさを持っていない家族がある。彼は自分の妻、すなわち自分が神と天使の前で、二人が生きている間、愛し、敬い、尊ぶと約束した妻になすべき親切で優しい礼儀のある行為を表してこなかった。働きのために雇った女の子は自発的に、彼の髪を整えるためにいささか積極的な注意を払い、愛情をこめて気遣うかもしれない。そのとき、彼は喜び、愚かしいほど喜ぶのである。そして、彼はかつて現したほどの注意と愛を自分の妻には表していない。ここでサタンが働いていることは間違いない。あなたの雇った助け手を尊重し、親切に思いやり深く扱いなさい。しかし、それ以上進んではならない。あなたのふるまいが、あなたの助け手からの親しみへと進展するようなものにならないようにしなさい。もしあなたが親切な言葉や礼儀正しい行為を与えるとしたら、それらを自分の妻に対して与えるのが、いつも安全である。それは彼女にとって大きな祝福となり、彼女の心に幸福をもたらし、それがあなたに再び反射して戻ってくるのである。(厳粛な訴え 155,156)

わたしの夫への敬い

「いずれにしても、あなたがたは、それぞれ、自分の妻を自分自身のように愛しなさい。妻もまた夫を敬いなさい。」(エペソ 5:33)

女が自分の家族の問題を、あるいは自分の夫についての不平を、他の男に語るとしたら、彼女は結婚の誓いを破っているのである。彼女は自分の夫を辱め、結婚関係の神聖さを守るために建てられた防壁を崩しているのである。彼女はサタンがその狡猾な誘惑をもって入るように戸を広く開き、招いている。これはまさにサタンがそうあればと望んでいることである。もし女がクリスチャンの兄弟のところに自分の悩みの話を持ってくるなら、彼はいつでも彼女に、もし自分の問題をだれかに打ち明けなければならないとすれば、自分の信頼する相手に姉妹を選ぶように助言すべきである。そうすれば、それによって神のみ事業が非難を受けるような悪の外見はないであろう。(教会への証 2 巻 306)

妻が自分の同情と関心と愛情を自分の夫以外の他の男に伝えるのを許すことがある。彼は彼女が信頼している家族の一員で、彼女が自分の問題、またおそらくは家族のプライベートな問題を話している人かもしれない。彼女は彼の交わりを欲していることを示している。

この根底にはサタンがいる。そして、彼女が危機感を持ち、自分のいるところで止まらないならば、彼は彼女を破滅へと導く。わが姉妹がたよ、あなたはこのことについて警戒しすぎることはない。もしあなたが優しい愛の言葉と親切な注意を与えるとすれば、それらをあなたが天使たちの前で、二人が生きている間は愛し、尊び、敬うと約束した人に与えなさい。ああ、何と多くの生涯が、すべての家族のプライバシーを封じ、純潔と神聖さを保つために意図された防壁が崩されたことによって苦々しいものとされたことであろう! 第三者が妻の信頼の中に取り入れられ、彼女の家族のプライベートな問題が特別な友人の前に明らかにされる。これはサタンが夫と妻の心を疎遠にさせるための策略である。ああ、これが止むように! なんとという問題の世界を避けることができることであろう! お互いの欠点を自分自身の心のうちに秘めておきなさい。あなたの問題を神にだけ告げなさい。このお方はあなたに正しい勧告と確かな慰めを与えることがおできになり、それは純潔でその中に何の苦々しさもないのである。(厳肅な訴え 156,157)

5月30日

模範によって感化を与える

「同じように、妻たる者よ。夫に仕えなさい。そうすれば、たとい御言に従わない夫であっても、あなたがたのうやうやく清い行いを見て、その妻の無言の行いによって、救に入れられるようになるであろう。」(ペテロ第一 3:1,2)

あなたは真理に対して熱心である。あなたはそれを愛し、そのために何か投資したいと願っている。それはみな正しいことであるが、あなたが他の人に与える教訓は、模範によって裏付けされていることを確かめなさい。あなたは平和を求めなければならない。あなたは、真理の原則を一つも犠牲にしないで、そうすることができる。あなたは激しく飛び出し、自分のやり方を押し通してきたが、今あなたが自分の感化力をおだやかなものとし、芳しく、和らげる必要がある。どこでもみ跡に平和の続いたお方の無害な生涯を模倣しなさい。

わが姉妹よ、あなたは進んで学び、進んで勧告を受けるものとならない限り、神の民にとって試練となるであろう。あなたは自分がそれをすべて知っていると感じて続けてはならない。あなたが神のみ前に完全になることができる前に、あなたが学ばなければならないことがたくさんある。学ぶべき最もうわしい最高の教訓は、謙遜の教訓である。「わたしに学びなさい」と謙遜なナザレ人は言われる。「そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」(マタイ 11:29)。この柔和、寛容、忍耐、そして愛の教訓を、あなたはまだこれから学び実践しなければならない。あなたは祝福となることができる。あなたは助けを必要としている人を助けることができる。しかし、あなたは自分の量りひもを下におかなければならない。なぜなら、それはあなたが用いるべきものではないからである。裁きにおいて間違ふことのないお方、すなわちわたしたちの墮落し腐敗した性質の弱さを理解されるお方が、自ら標準を持っておられる。このお方は聖所の秤で量られる。そしてこのお方の正しい計量を、わたしたちはみな受け入れるのである。

あなたは自分の夫に対するふるまいにおいて誤っている。あなたは彼に対してもっと優しさと尊敬を培う必要がある。あなたは厳しすぎる。あなたは事態を極端に運び、自分自身の魂と真理に害を及ぼしている。あなたは真理を、嫌悪を催させるようなものにし、魂がそれを恐れるようにしている。愛があなたの言葉を和らげ、あなたの行動に色合いを与えるようにしなさい。そうすれば、あなたは自分の交わる人々のうちに変化を認めるようになる。そこには争い、嫉妬、不和の代わりに平和、一致、調和があるであろう。愛と優しさを、とくにあなたの家族のうちで働かせなさい。そうすれば、あなたは祝福を受ける。(教会への証 2 巻 438,439)

あまりにもしばしば妨げられる夫の祈り

「夫たる者よ。あなたがたも同じように、女は自分よりも弱い器であることを認めて、知識に従って妻と共に住み、いのちの恵みを共どもに受け継ぐ者として、尊びなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためである。」(ペテロ第一 3:7)

わたしたちの祈りは、自分の心の誇りによって、欠点を告白し、悪い印象を取り除くことを拒むことによって妨げられている。(この日を神と共に 19)

L氏は、自分の妻への愛、すなわち言葉や行いに表現を見出す愛を培う必要がある。彼は優しい愛情を培うべきである。彼の妻は繊細で依存心の強い性質をもっており、大事にされる必要がある。すべての優しい言葉、すべての感謝や愛情深い励ましの言葉は彼女に覚えられ、それが自分の夫への祝福となって反射される。彼の同情心のない性質は、キリストとの密接なつながりのうちに入れられる必要がある。それによってその堅苦しさや冷たい自制が神聖な愛によって征服され、やわらげられるためである。自分の妻に優しさや同情を言葉や行為に表現することは、弱さでも、男らしさや尊厳を犠牲にすることでもない。(教会への証 3 巻 530,531)

わたしたちは力の限りを尽くして、すべてのつまずきの石を取り除くべきである。……あなたのできるかぎり、すべて譲歩しなさい。苦しんでいる思いに、もう一歩進んだ謙遜や、優しい心の関心が取り除くことのできる誤解を残したままにしてはならない。サタンは確実に誤解させるための誘惑をもってその思いのところにやって来て、モグラ塚から山を作り出すのである。傷ついた感情にたやすくつまずく思いは、あらゆる種類の誤った考えを思い描く。(この日を神と共に 19)

あなたは他の人々の生来の独立心を尊重すべきことを覚えていなければならない。もしあなたの妻が自分の働きを自分に都合のよいように行くとすれば、あなたには彼女の事柄に干渉したり、いらだったり、彼女のやりくりに対するあなたの多くの助言や小言で彼女に重荷を負わせたりする権利はない。……

あなたの妻を自分の意志の奴隷にするために努力してはならない。かえって、親切と、彼女の快適さと幸福を促進しようとする無私の願いによって、彼女をあなた自身との密接な同情のうちにひきよせなさい。彼女に自分の才能を働かせる機会を与えなさい。(教会への証 4 巻 139,140)

Good Way Series 研究 1-4



黙示録 18 章の御使と 1888 年のメッセージ (IV)

IV- 避けられない結果

残念なことは、1888 年「信仰による義のメッセージ」によってもたらされた分岐点について、再臨信徒が、わずかな例外を除いては、正確に知らされていないということです。この主題について教会の公の出版物にはほんの僅かで不十分な情報しか掲載されていません。今まで引用してきた預言の霊の言葉を読んだ人々は、今日、教会の指導的立場に立つ人々によって不正確な宣言がなされているのがわかり、確かに失望することでしょう。実例として「The Story of our church (われわれの教会の物語) 246,247」には次のようにあります。

「総会に出席した民は、喜んでメッセージを受け入れたが、指導者のある者は拒絶した…。」

「1888 年の世界総会以来、徐々に一致していき、運動に反対した指導者たちはもっと深い個人的な信仰へ向かい、ホワイト夫人の譴責を受け入れ、そして総会の後の自分たちの不幸な状態を告白した…。」

「ミネアポリスの総会は落胆と警告に見えた総会ではあったが、結果として教会に大勝利となる結果を与えた。…指導者たちに新しい経験が訪れ、信仰による義を確実に強調しなければならないことを悟った結果、教会は国内外の事業の全分野において、急速な発展を成し遂げたのである。」

このように今指導者たちが伝えようとしているこの楽観的描写は、今まで引用し、また以下に引用する主の僕ホワイト姉妹によって示された真実の描写と矛盾するのである。ホワイト姉妹は次のように述べている。

「イエスの宗教は危機にさらされている。それは世俗と混じっている。世俗的な政策が上からの真の敬神と知恵の代わりとなり、神は総会からご自分の祝福のみ手を取り去られるであろう。契約の箱がこの民から除去されるのであろうか。偶像がひそかに持ち込まれるべきであろうか。誤った原則と教訓が聖所の中に持ち込まれるのであろうか。反キリストが尊重されるのであろうか。われわれを現在の立場に立つように神によって与えられた真の教理と原則が無視されるのであろうか。…これは直接に敵が、盲目で献身しない人々をとおして、導いているところである」(MS20.1890 年)。

「形式主義、世の知恵、世の注意、世の政策は、多くの者には神の真の能力のように見えるが、これらを受け入れるとき、それは世に警告と譴責と勧告として与えられる神の光を妨げる障害物となる。…

サタンは小さいくさびを用いて、それらのものが入り込むたびに自分の場所を取る。サタンのもっともらしい企みが、この時代の神の特別な事業に持ち込まれるであろう」(MS20.1890 年)。

「主はご自分の教会に譴責と警告を与えずには見捨てることをなさらない。罪悪が流行っている。しかし、それでも罪は神の御前にますます忌むべきものとなっている。罪はごまかされ、軽く扱われ、言い訳されている。誤った理論と感情を持ち込み、神の民の心を混乱させ、何が正しい原則を構成しているのかということに関する感覚を弱めているその人々に、友情の右手が差しのべられている。このようにして良心は、与えられた勧告と譴責に対して無感覚になった。悔い改めを呼び起こすために与えられた光は、人間の計画と考案によってもたらされた不信と反対の雲のうちに消えてしまった」(ニュース・レター・メソッド No.1 1897 年)。

「牧会に新しい物事の秩序が持ち込まれてきた。他の教会を真似することを願望し、単純さと謙遜さはほとんどなじみのないものとなった。若い牧師たちは独創的になろうと努め、働きのために新しい思想や計画を持ち込もうとしている。ある者はリバイバル集会を開き、この手段によって大勢を教会に呼び集める。しかし、興奮が消え去るとき、改心した魂はどこにいるのだろうか。罪の悔い改めと告白は見られない。罪人は彼自身の過去と背信の生涯を考えるとなくキリストを信じ、受け入れるようにと嘆願される。その心は砕かれない。魂の悔悟はない。改心したと想定される人々は、岩なるイエス・キリストの上に落ちて砕かれていな

いのである」(Undated MS, 111)。

1. 不忠実な指導者たちが責められた

「神の光に対して目を閉ざす人々は、聖書も神の御力についても無知であり、嘆かわしいほど無知である。聖霊の働きは彼らに受け入れられず、そのあらわれを狂信であるとする。…

このような信仰を抱いてそのように話す人々は、彼らが何について語っているのかをわかっていない。彼らは暗闇を愛する心を抱いている。そしてこのような人々が責任の地位に維持している間は、神のみ事業は危険にさらされている。彼らは自らをあらゆる反逆の闇の指導者に非常に固く結びつけるあまり、決して光を見ることがないという危険のうちにいる。そして、彼らがその地位に長くいればいるほど、キリストを受け入れ、あるいは真の神を知る知識を持つ彼らの機会については希望がなくなる。彼らは真理において霊的で漸進的なものをすべてなんと不確かなものにしていくことであろう。彼らは、自分たちの指導者の感化の下、ますますキリストに反対して働くことを決意するようになるのである」(牧師への証 284, 285〔1896年〕)。

2. 損なわれたキリストの旗印

「聖霊は多くの機会をとおして働かれたが、ミネアポリスで神の聖霊に抵抗した人々は、再び同様の立場をとる機会を待っていた。なぜなら彼らの精神は同じだったからである。その後、証拠に次ぐ証拠が積み上げられたとき、ある人々は誤りを悟った。しかしみ霊の働きによって和らげられず、征服されなかった人々は、神のすべてのみ恵みの現れに彼ら自身の解釈をほどこし、多くのものを失った。彼らは心と魂と言葉において、この聖霊のあらわれを狂信であり、欺瞞であると宣言した。彼らは岩のように立った。あわれみの波は彼らの上や回りを流れていたが、聖霊のみ働きに抵抗していた彼らのかたくなで邪悪な心によって退けられた。もしこれが受け入れられていたなら、彼らは救いに至る知恵を受け、より聖なる人となり、清められた能力をもって神のみ事業を果たす備えのできた者となったであろう。しかし、全宇宙は聖霊によってあらわされたイエス・キリストに対する恥ずべき取り扱いを目撃したのである。もし、キリストが彼らの前におら

れたなら、彼らはユダヤ人がキリストに対してとったのと同じような態度でキリストを扱ったであろう。…ミネアポリスで誘惑に心の戸を開き、同じ精神を持って家に帰った人々は、たとえ今でなかったとしても近い将来に、自分たちが神の御霊に抵抗し、恵みのみ霊を軽蔑したことを悟るようになるであろう。彼らは悔い改めるであろうか。…主の御霊は、主が光と共に、尊い光と共につかわされたご自分の使命者たちの上に臨在しておられた。しかし、義の太陽から顔を背けた者が非常に多かったのも、彼らはその輝かしい光を見なかった。主は彼らについて、『彼らはわたしに背を向けて、その顔をわたしに向けない…』と言われた…。だが今わたしの書いているこれらのことを理解するであろうか。…主は来られる。しかし、神がミネアポリスで豊かに与えられた光にあえて反抗する人々、すなわち神のみ前に彼らの心を低くしなかった人々は、絶えず反抗の道を歩み、そして、次のように言うであろう。『主とはいったい何者でわたしがその声に聞き従うのか』。第三天使のメッセージを伝えるすべての人が持つ旗は、いま実際にはその旗の色を取り消すもうひとつの色でおおわれているのである」(特別な証シリーズ A No. 6, 19-26 (1896 年))。

3. 働きが新しい型を受け入れる

「重大な責任が委ねられたが、神との生きたつながりを持っていなかった人々は、聖霊を軽蔑してきたし、聖霊を軽蔑し続けている。彼らはコラ、ダタン、アビラムの行なったのと、またキリストの時代にユダヤ人の持っていたのと同様の精神にふけっている。…

イエスは言われた。『それだから、わたしは、預言者、知者、律法学者たちをあなたがたにつかわすが、そのうちのある者を殺し、また十字架につけ、そのある者を会堂でむち打ち、また町から町へと迫害して行くであろう』。この預言はユダヤ人のキリストに対する扱いによって、また神が送られた使命者たちに対する扱いによって文字通り成就したのである。この最後の時代の人々も、キリストが非難された人々の例にならうのだろうか。

この恐ろしい預言を彼らはまだ完全には成就していない。しかし、もし神が彼らの生命をながらえさせ、彼らがミネアポリスの総会の前後にあらわした行動と同じ精神を抱き続けるなら、ちょうどキリストが地上におられた時に非難なされた

人々の行為を余すことなく満たすであろう。…

彼らはミネアポリスでこのサタンの働きを始めた…。それでもこれらの人々は信任の地位を占めてきた。そして働きを自分自身の型にしたがって形成してきたのである」(牧師への証 78-80 (1895 年))。

「すでに闇の権力は、働きの上にその型と名を置いてきた。…わたしたちの働きに聖霊が欠乏している」(牧師への証 277, 278 (1896 年))。

はなく、だれかほかの人のことを考えておられたからです。それは、そのときには、まだこのお方の思いの中でしか存在していなかったけれど、まもなく、実際に生きた存在となるはずの人です。この方がこれらの美しいもの、うるわしいもの、この宝と喜びの富をすべて与えようと計画しておられた者でした。

草や花々の間に光をはなち、きらめく金、銀、宝石のすべて、木の実、果物、穀物の豊かな備えのすべて、このすばらしい新しい世界の栄光のすべて―すべては彼のためでした。彼を幸せにし、彼に愛の崇敬と感謝を自分の創造主にお返しするためのものだったのです。

世界は彼のためにほとんど用意ができました。ほとんどできましたが、完全ではありませんでした。まだいくつかなされなければならないことがありました。

「夕となり、また朝となった。第三日である」。

ファラフェル (中東のひよこ豆のコロッケ)

■材料 (6 個分)

水で戻したひよこ豆	100 グラム (乾燥ひよこ豆 50 グラム分)
ゆでたひよこ豆	100 グラム
玉ねぎ	1/4 個 (50 グラム)
にんにく	1 かけ
パクチー (みじん切り)	大さじ 2
クミンパウダー	小さじ 1/4
塩	小さじ 1/3
片栗粉	大さじ 1
オリーブオイル	適量

■作り方

1. 乾燥ひよこ豆を一晩たっぷりの水につけておく。
2. 水で戻したひよこ豆をフードプロセッサーに入れて、細かく砕く。
3. ゆでたひよこ豆を加えてつぶす。
4. 玉ねぎとパクチーをみじん切りにし、にんにくをすりおろす。
5. ひよこ豆と野菜を混ぜて、調味料および片栗粉を混ぜて、6 等分し、6 センチくらいの平たい円形に整える。
6. フライパンに少し多めのオリーブオイルを入れて、中火で 5-6 分ほど両面を揚げ焼きにする。

サラダと一緒にどうぞ。パンにはさんで食べるのも人気です。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート1 第8話

世界の誕生日(II)

「地は青草と、種類にしたがって種をもつ草と、種類にしたがって種のある実を結ぶ木とをはえさせた。神は見て、良しとされた。」

神さまがそれをすべてデザインされ、造られたのですから、それはとてもとても良かったにちがいありません。そしてこのお方はそれを非常に喜ばれました。聖書はすべてのものがこのお方の「喜び」のために造られたと述べています。わたしは神さまが楽しんでこれらの植物や花々や木々を、それぞれ互いに異なるものを造り、またそれらすべてのものに将来を通じて「それぞれの種類にしたがって」再現する力をお与えになったのだと考えるのが好きです。

神さまは特に「実を結ぶ」木々、つまり果樹に関心をもっておられたようです。どれほどの注意を払ってリンゴの木、ヤシの木、なしの木、オレンジの木、レモンの木、アボカドの木、そしてその他それぞれの実を結ぶすべての木々を造られたことでしょう！そしてわたしはこのお方がこの木からあの木へと進みながら、おそらくその実を味わいながら、ご自身で仰せになったのではないかと思います、「彼はこれがきっと好きだろう。たしかにこれが好きにちがいない。そしてこれも、これも」。

なぜなら、神さまはご自分のことを考えておられたので

